

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		77,627	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素排 換出 算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		77,627

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度	t-CO ₂	令和 6 年度	t-CO ₂	令和 4 年度	t-CO ₂	令和 5 年度	t-CO ₂	令和 6 年度	t-CO ₂
温室効果ガス総排出量										
削減率（対基準年度）		%	%	%	%	%	%	%	%
温室効果ガスみなし総排出量					t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対基準年度）				%	%	%	%	%	%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度	t-CO ₂ / 千t	令和 6 年度	t-CO ₂ / 千t	令和 4 年度	t-CO ₂ / 千t	令和 5 年度	t-CO ₂ / 千t	令和 6 年度	t-CO ₂ / 千t
原単位あたりの排出量	1512		1467		1594		1585		1666	
削減率（対基準年度）		3.0	%	▲ 5.4	%	▲ 4.8	%	▲ 10.2	%
原単位あたりのみなし排出量					t-CO ₂ / 千t	t-CO ₂ / 千t	t-CO ₂ / 千t	t-CO ₂ / 千t	t-CO ₂ / 千t
削減率（対基準年度）				%	%	%	%	%	%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

<ol style="list-style-type: none"> 省エネ案件の発掘不足 市況変動による減産 新設の設備、機器においては事前に省エネタイプ導入の検討を行っている。 省エネ委員会及びISO14001活動等による省エネ目標へ向けた細かな取り組みの実行
--

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の行動の実践 (冷暖房)	<ul style="list-style-type: none"> ・冷房28℃、暖房19℃を徹底 ・クールビズ・ウォームビズの推奨 ・屋上緑化により屋根等からの侵入熱の防止 		<ul style="list-style-type: none"> ・管理職によるパトロール ・電力の見える化による全部署省エネ意識の共有 ・冷暖房効率化のためサーキュレータの活用 ・R22フロン使用機器の更新 ・温暖化による冷房稼働時間の増
省エネルギー・省資源の行動の実践 (照明)	<ul style="list-style-type: none"> ・人がいない場所での消灯徹底 ・不要な電灯の間引き ・LED化 	照度基準300ルクスを目標に場内点検し、間引き等を実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・照明のLED化 ・照明間引き用に機器ごとのスイッチ設置 ・照明の人感センサー導入
省エネルギー・省資源の行動の実践 (OA機器)	<ul style="list-style-type: none"> ・退社時のパソコン・コピー機の電源オフを徹底 ・パソコンの照度ダウン ・省電力機器の導入 	チェックリストの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・退社時のPCコンセント抜き ・PC省エネモード切替時間の設定 ・ペーパーレス活動によるシュレッダー、コピー機の稼働率削減
自動車利用における取組	<ul style="list-style-type: none"> ・急発進・急加速をしない、アイドリングストップの確実な励行などエコドライブを推進 ・燃費効率の良い車両への更新 ・荷役作業車両（フォークリフト等）の電動化 	・ガソリン、軽油使用量10%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・電動フォークリフトの導入
製造工程における対策	<ul style="list-style-type: none"> ・設備更新・新設時における省エネルギー型機器の採用 ・工程安定化行い設備トラブル削減、対策による電力、燃料の削減 	・設備発案前での仕様確認の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・新規設置設備の省エネ機器の導入 ・排水処理施設曝気ブロー省エネタイプを導入（インバーター化）省エネタイプに予備機導入実施 ・冷水用冷凍機の高効率機への更新
製造工程における対策	<ul style="list-style-type: none"> ・蒸気供給条件緩和時の生産条件の確立 	・蒸気供給温度の低減	<ul style="list-style-type: none"> ・蒸気温度低減時の生産条件を確立した。

指針第 2 号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

--